第6学年1組　社会科　単元学習プラン

児童数　23名　授業者　古原大嵩

1. 単元名　　将軍(江戸)から天皇(東京)へ

2. 単元の目標

（1） 西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允等の働きを通して、武士の幕藩体制から、再び天皇を中心とした中央集権国家に政治体制が大きく転換されたことを理解することができる。　【(2)－ア(ケ)】(知識・技能)

（2） 歴史上の人物の働きや出来事、代表的な文化遺産などに着目して、武士中心の政治から再び天皇中心の政治となっていった時代の背景や影響を考えることができる。　【(2)－イ(ア)】(思考力・判断力・表現力等)

（3） 明治維新が進んだことについて、予想を立てたり、自分の考えや根拠について見つめ直したりして、主体的に学習課題を解決しようとしている。

3. 子どもが働かせる見方・考え方　　○ 時期・変化や影響の視点を使って歴史上の事象に着目すること

4. 単元構成

	主な学習活動【□】	子どもの考え(A児を中心に)【○】
集団追求過程	□一次資料(2枚の「日本橋付近の絵」と初代長崎小学校校長)をもとにして学習の見通しをもち、単元計画を立てる。（2h）	○歩いている人の服装や髪型が全然違うね。江戸時代末頃の絵は着物や和服を着ているけど、明治時代初めの絵では、洋服を着ているよ。髪型もちょんまげから変わっているね。帽子をかぶっている人もいるよ。 ○長崎小は明治12年頃に開校しているから、この絵と同じくらいの時期だね。初代の校長先生も今と同じようにスーツを着ているよ。 ○たったの30年くらいで、こんなにも大きく様子が変わるんだね。きっと、この時代にも中心になっている人がいるはずだよ。その人はどんなことを考えながら人々をまとめていったのかな。
個別追究過程	□黒船来航から倒幕、明治維新と富国強兵、文明開化について、それぞれの期間に代表する人物や出来事がどのように時代を変化させていったのかについて調べる。（3h）	○江戸幕府を倒して明治の新しい世の中をつくった人はどのような人だったんだろう。 ○明治の新しい世の中をつくったのは、大久保利通や西郷隆盛などの下級武士が中心だったんだね。彼らは、将軍の代わりに天皇を中心として明治政府をつくるために廃藩置県や四民平等などの改革をしていったんだね。 ○明治新政府が行った廃藩置県は中大兄皇子の頃の公地公民と仕組みがよく似ていることに気がついたよ。政治をするための権力を高めていくためには、やっぱり土地をどのように治めていくかが大切なんだね。
集団追求過程	本時の目標　明治新政府の人々や土地の治め方について、江戸時代との比較を通して共通点や相違点などを中心に説明することができる。 ■ 調べた期間の人物や出来事について説明する。（2h：本時は1／2時）	1. 調べてわかったことを話す ○明治維新では、大久保利通、西郷隆盛や木戸孝允などの身分の低い武士が江戸幕府を倒幕して天皇を中心とした明治新政府をつくったよ。明治新政府は、江戸時代までの土地制度や身分制度を大きく変えて新しい世の中にするために、廃藩置県や四民平等などの改革を進めたよ。これは公地公民とよく似ているけど、実際に政治を進めているのは天皇ではなく、大久保利通らの新政府の人たちなのと、皇族や貴族以外はみんな同じ身分になったので、その辺りが大きく違うところかな。 2. 代表的な出来事とその後の影響について話す ○大政奉還をきっかけに、明治新政府の改革が進んだよ。でもこれは、徳川慶喜が愛誠奉還を通して、大きな戦いをすることなく政治の権力を天皇に譲ったことが関係していると思うよ、今までは権力が移る時は必ず争いをしていたからね。
個別追求過程	□黒船来航から倒幕、明治維新といった明治初期の時代について、考える。（2h）	○この時代は、これまでの歴史では初めて、身分が高くはない人たちが中心になって政治を進めた時代だね。黒船が来て、外国の進んだ文化に驚いて危機感を持ったのかもしれないね。でも、幕府側も明治新政府側も日本をもっとよくいていきたいという気持ちは変わらなかったんじゃないかな。この時代は、一人ひとりが日本の将来を本気で考え時代なのかもしれないな。
集団追求過程	□自分が単元を通して捉えた「日本の歴史」について話し合う。（1h）	○外国との差を体感すると時代は大きく変化するね。そういえば聖徳太子や中大兄皇子の時代も中国の進んだ制度や文化を取り入れることで政治を大きく進めていたね。 ○今までは、身分の高い人や力のある人が政治の中心になっていたけれど、身分の低い人々が中心に政治を動かしていったのは今回が初めてだったな。